

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。  
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

5月1日(水)→6日(月・休)

いし おどり こう いち

## 石踊 絃一 素描展

石踊先生は、1941年旧満州に生まれ、東京藝術大学絵画科日本画を卒業後、1985年には文化庁派遣芸術家在外研修員(現、新進芸術家海外研修制度)として渡印され、古典絵画を学ばれました。以降、30余回にも及ぶインド取材は先生の画業において重要なライフワークとなります。今展では石踊先生がこれまで描いてこられたインドの人々や日本の風景・静物など選りすぐりの素描作品約40点を展覧いたします。



「忍野からの富士」(55×75cm)

5月8日(水)→13日(月)

## 工芸の美

—第53回 日本伝統工芸近畿展出品者選抜展—

第53回展において最も輝いた作品を制作された受賞者、そして今後の活躍が期待される初入選の作家を中心に、またこれからを担う若手中堅の作家たちが近畿展出品作品とは異なる作品を展示いたします。

甲斐 幸太郎「花器【灯】」(径19.5×高さ28cm)



5月15日(水)→20日(月)

しん じょう さだ つぐ

## 新庄 貞嗣 作陶展

萩焼の拠点の一つである長門・深川湯本で作陶する新庄貞嗣先生は、深川萩開窯にかかわった一人である赤川助右衛門の子孫にあたります。今回は、独自の取り組みを続けてきた茶碗、水指、花入などの茶陶を中心に、花器、盤、盒といった大きな作品も展示いたします。



「萩筆洗茶碗」  
(12.9×11.5×高さ8.9cm)

5月22日(水)→27日(月)

## 漆芸 七代 金城 一国斎 展

江戸時代後期に尾張から大阪を経て広島へ移った漆芸家金城一国斎。七代目の当代は螺鈿や切金で飾箱を制作し日本伝統工芸展で活躍をしています。また、唯一無二の漆芸技法「高盛絵」は文様を立体的に表現し、花や昆虫を生き生きと描いています。210年の伝統を独自の感性で繊細に表現した飾箱・菓子器・香合・漆額など新作・近作を一堂に展覧いたします。



「切金螺鈿箱【麦浪】」  
(2022年 第69回日本伝統工芸展入選作)  
(27.0×11.5×高さ18.0cm)

しん たに いち ろう

## 新谷 一郎 石彫展

石を彫り刻み形を作り出すことにこだわっている新谷先生。花崗岩や大理石を使って、狛犬やカバなど動物の姿を単純化した作品を制作されています。どこか親しげで、手で触れてみたくなる作品の数々を展覧いたします。



「狛犬・呷(うん)」(26×22×高さ26cm)

5月8日(水)→20日(月) ※5月14日(火)は開催いたします。

## —光彩讚美— 並木 秀俊 展

東京藝術大学在学中に学んだ伝統技法「截金」と、日本画を融合した作品が高い評価を得ている並木先生。今展においては、風にたなびく草や宙に舞う羽根、夕日に反射してキラキラと輝く波を箔を極限に切って貼り付けた作品など、20数点を展覧いたします。実物でしか味わえない截金の魅力を体感ください。



「金孔雀」(120×100cm)

いわ さき えり

## 岩崎 絵里 展 -Hero-

“何かを成し遂げた英雄だから「Hero」なのではなく、今、ここに存在する事自体が「Hero」という思いを込めた今展では、板や紙、絹本とそれぞれの支持体による様々な絵の表情や雰囲気異なる作品約20数点を展覧いたします。



「BaBa」(8F)

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。  
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

5月1日(水) → 5月13日(月) ※5月7日(火)は開催いたします。

い どう あや

## 伊藤 彩 展 「ゲノムの詩-Collaboration with Fujimura Family」



1987年和歌山県に生まれ、2011年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻を修了。「フォトローイング」と呼ぶ独自の手法を用いて制作される作品は、鮮やかな色彩と不思議なモチーフで構成されています。その独特な作風が評価され、2021年には和歌山県の文化奨励賞を受賞されました。今展では美術家と詩人のアーティストユニットであるFujimura Familyと初のコラボレーション作品を発表。見る者を中毒的な魅力で引き込む作品の数々をご覧ください。

「ゲノムの詩」©Aya Ito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

5月15日(水) → 5月27日(月) ※5月21日(火)は開催いたします。

た なか ゆう

## 田中 悠 展



陶の造形作品の中にできる内側の空間に着目した田中悠先生は、この空間を利用した作品ができないかと考え、陶の中の何かを包むという発想に至り、以来様々な形状の何かを布で包んだ造形をテーマに陶立体作品を制作してこられました。何かの形に添うように作られたドレープの柔らかな曲線が、陶器の中には確かに何かが存在し、布に自立している力を与えていると感じさせます。そして陶器でできた作品の結び目を解き、中に何が入っているかを確認することはできない不確かなジレンマを作品の中に含ませていることが、作品の魅力のひとつでもあります。今展では大きさも色もさまざまな新作を一堂に展覧いたします。

「tsutsumimono」(20.0×12.0×高さ16.5cm)

5月29日(水) → 6月10日(月) ※6月4日(火)は開催いたします。

## せんかいばんこう にし なか ゆき と 千廻万煌 西中 千人 展



よびつぎ 呼継  
呼継「焔」(40.5×31.5×高さ33.5cm)

古の日本の美を礎に、今を追求する西中千人先生。ヒビ割れを魅力に変えた金継の哲学に触発され、自ら作った器を壊しその破片を組み合わせる「呼継」とリサイクルガラスを活用した「資源循環アート」を主軸にしておられます。今展ではオブジェや花器、茶道具、壁面作品など、約60点を出展いたします。いけばな小原流家元 小原宏貴氏とのコラボレーションもお楽しみください。

6月1日(土)午後3時から4時はイベント開催のため閉場させていただきます。